

ものづくり一気通観エンジニアの養成

実施機関：豊田工業高等専門学校（総括責任者：高井 吉明）

実施期間：平成 21～25 年度

プロジェクトの概要

本養成ユニットでは、地域製造業において中核技術者を目指している意欲的な技術者及び高専学生を対象に、先進ものづくり企業、大学及び産業技術研究所の協力を得て豊田高専を拠点に「産学官」の三者が一体となって人材創出拠点を形成し、中小企業のリーダー技術者、次世代の創造力豊かなものづくり実践技術者の育成を目指している。

企業技術者と高専学生がプロジェクトチームを編成し、工学基礎、専門、実験とともに、伝承技術、異分野及び先端技術、工学と実学の融合と創意工夫による効率的な生産システム開発課題に取り組む。高専・大学、地域企業、技術研究所など産学官が協力した共同教育（CO-OP）により技術者・学生が共に学び、ものづくりを多面的に捉えて開発できる技術者を養成する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは、日本の代表的ものづくり地域において中小企業のリーダー技術者の育成を目指しており、企業技術者人材を養成目標以上に輩出したことは評価できる。また、とよたイノベーションセンターを拠点とした産学官連携システムを構築するとともに、実践課題研究という異分野からなる実習を効果的に行ってきたことなども評価できる。今後は、真に「ものづくり一気通観エンジニア」といえる多くの人材を養成するために、プロジェクト終了後の長期的で強力なフォローを期待する。

・**目標達成度**：目標 80 名を大きく上回る 139 名の修了者を輩出したことは、受講者派遣企業のリピート率が高いことも含めて評価できる。

・**人材養成手法の妥当性**：ものづくり工程全体を俯瞰できる技術者を養成することは有意義であり、実践課題研究と呼ばれるプロジェクト実習で、商品開発から製造工程の設計、製造設備の製作、自動検査工程の実装等をチームで進めるという養成手法は評価できる。今後は、新たな事業の展開に向けた企画力を養うことを期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：とよたイノベーションセンターを核に、豊田市、豊田商工会議所、豊田高専が密に連携して本プログラムを推進した点は評価できる。今後は、企業との継続的な連携を期待する。

・**人材養成ユニットの有効性**：企業訪問において示される本事業への関心の高さや受講者派遣

企業の高リピート率などから、本人材養成ユニットは有効であると評価できる。今後は、グローバル化への対応やリーダー技術者の養成ばかりではなく、より高度なものづくりに対する教育も期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：自治体や地元企業との間に良好な関係が構築されており、とよたイノベーションセンターの下で、豊田市の予算措置も得て継続されていることは評価できる。今後は、本事業の一層の発展に向け、デザイン志向や女性視点の導入などイノベーション教育等も検討することを期待する。

・**中間評価の反映**：英語力やコミュニケーション能力を向上させる新たな仕組みを構築するとともに、修了生へのフォロー体制の検討が進められるなど、中間評価は適切には反映されている。